

特別支援教育 あどばいすタイム

社会性の発達とその支援

徳島県教育委員会 特別支援教育課
指導主事 岡田 祐介

今回の概要

マイケル・トマセロ (アメリカの認知心理学者) 提唱

【言語獲得理論】

社会語用論的アプローチと呼ばれ、
共同注意 (ジョイントアテンション) をはじめとする
社会的・コミュニケーション的な側面の果たす役割
の重視を特徴としている。

参考文献：マイケル・トマセロ「心とことばの起源を探る」。勁草書房，2006

今回の内容

- 1  共同注意の成り立ち
- 2  初期社会性の発達
- 3  発達段階とその支援

共同注意の成り立ち

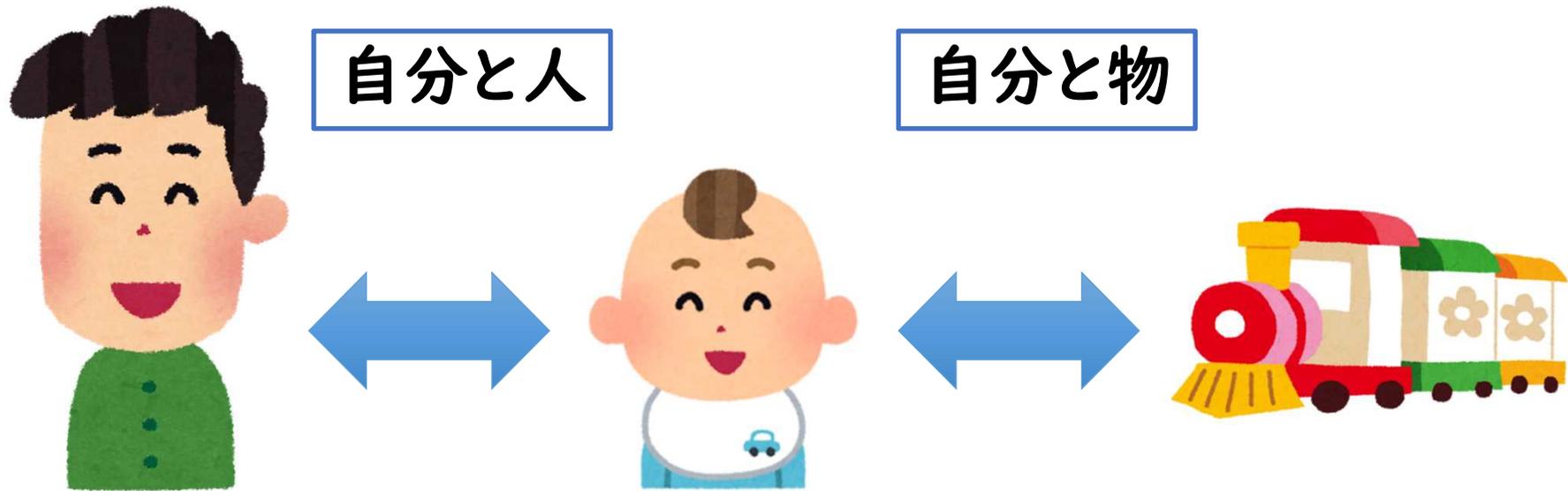
【共同注意】とは

複数の人が同時に同じ対象に注意を向けている状態のこと。

参考文献：

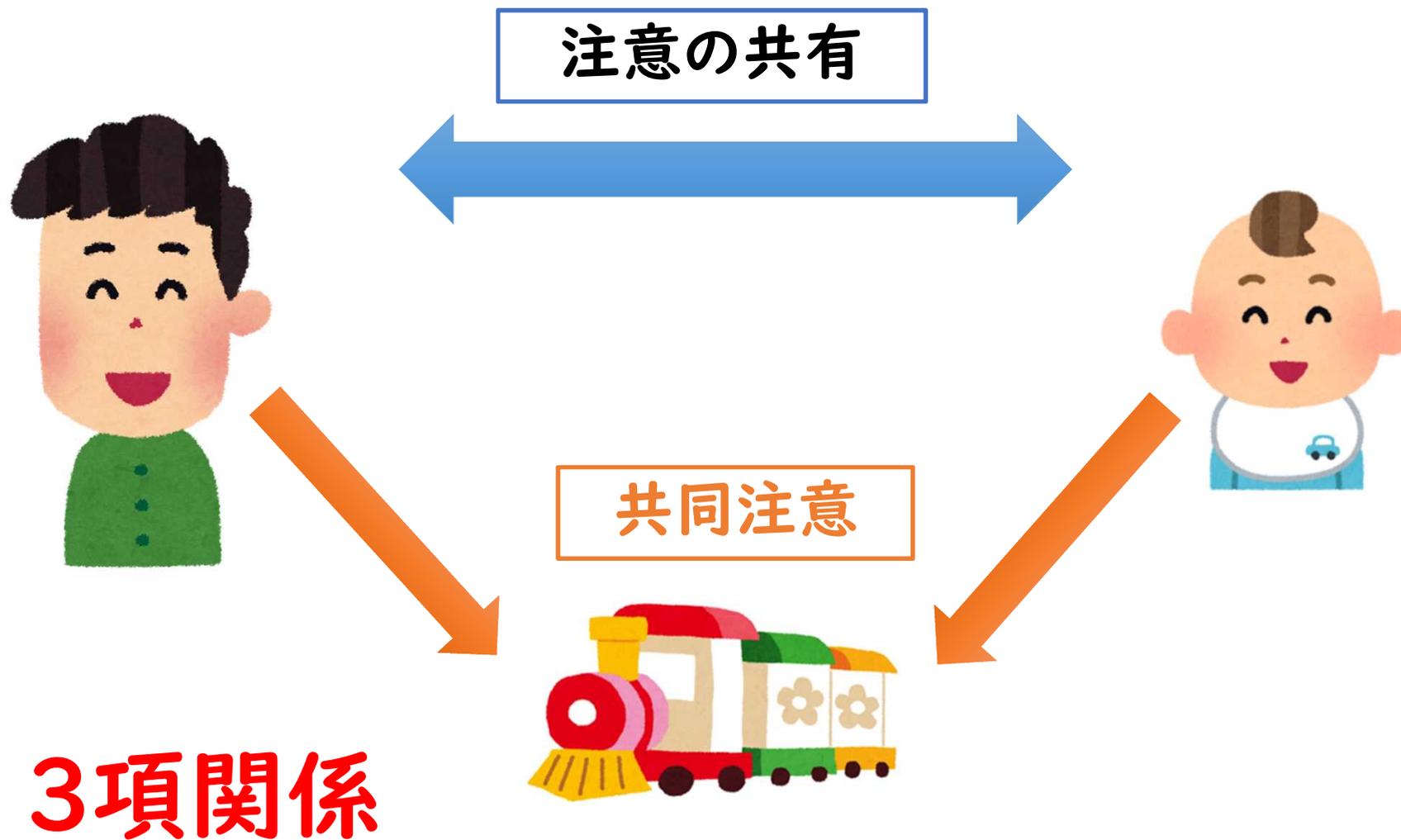
長崎勤ほか「自閉症児のための社会性発達支援プログラム」．日本文化化学社，2009

生後6か月頃



2項関係

9か月革命



初期社会性の発達

1~2歳

意図と注意の共有

9~12カ月

目標と知覚の共有

0~8カ月

行動と情動の共有

社会性の発達過程

(初期) 社会性

【社会性】とは

人と何かを共にし、またそのことを楽しむこと
= 共同行為 (ジョイントアクション)

共同行為



目標の共有

「一緒にお餅をついて食べる」

役割分担（相互理解）

「お餅を返す役割」

「お餅をつく役割」

役割交代（プランの共有）

「疲れたら交代する」

行動と情動の共有（0～8カ月）

【体の動きの同期と初期の模倣】

- ・大人が舌をつきだすと、同様の行動をする
- ・乳児に話かけると、調子を合わせて体を動かす

【情動の共有】

- ・大人が微笑むと微笑み返す
- ・横で夫婦喧嘩がはじまると、雰囲気を感じて泣く

支援のポイント

- 子どもが大人の存在に気づき、注意を向けることや快の情動を共有する
- 子どもの行為や身体の動き、発声や表情の真似をし、同期することで大人への注意を促がす
(逆模倣)
- 子どもの興味関心が高い遊びに、大人がいられてもらうことで場を共有する

目標と知覚の共有（9～12カ月）

- 相手が何をしようとしているか理解する
- 相手に応じる
- 相手の模倣をする
- 相手が注視したものを注視する

(1) 視線の共有

□ 共同注意

□ 視線の追従

□ 興味のあるものを大人に差し出す提示行為

□ シンボルの共有

(2) 目標の共有

- 大人が片付けはじめると、こどももおもちゃをかごに入れはじめる。
- ちょうだいというと、ボールを渡す。

目標志向的な存在としての他者を理解する
＝「目標の共有」

(3) フォーマットの共有

- 親と向かい合ってボールのやりとり
(投げる→受け取る→投げる・・・)
- いないいないばあ

簡単なルールのある遊び=フォーマット

(4) 意味の共有（ことばの共有）

- 子どもの伝達意図を大人が言葉にすることで（代弁）、子どもは伝達意図をことばに置き換えること（代弁模倣）をはじめ、シンボル=ことばを共有する。

支援のポイント

- 物を介した遊びや活動での三項関係の中で物への注意を共有し、互いに同じものを見ていることに気づく
- 支持的共同注視からはじめ、受動的な共同注意へ
- フォーマットの中で、大人主導の遊びに移行
- 大人の行為を模倣する

意図と注意の共有（1～2歳）

- 互いに相手の意図（プラン）を理解し、自分の意図に、相手の意図を協応させていく
＝意図の共有
- 三項関係への能動的参加
- 相互に独立した役割であることへの理解
（役割反転模倣）
- 協同活動（一緒に運ぶ など）

(1) 意図の共有

- ① 大人がおもちゃを片づけて、子どもがおもちゃを拾って大人が持っている箱に入れる。
 - ② 大人が子どもに箱を渡すと、子どもは自分がおもちゃを受け取る役だとわかり、箱を持っておもちゃを拾っている大人のところへ行き、おもちゃを受け取りに行く。
- 自分と相手の役割を相互に理解して、活動できる

(2) 三項関係への能動的参加

- 大人がやりとりを中断すると、再開を促す

- 能動的な共同注意
 - ・興味のあるものを自分から指さす
 - ・興味あるものを差し出す、手渡す
 - ・興味あるものと他者の顔を交互に注視
 - ・問題解決場面で、他者が困ったとき教える

(3) 相互に独立した役割であることを理解

□ 役割反転模倣

- ・パパにご飯を口に運んでもらう
→パパの口にごはんをはこぶ
- ・いっぽんばしこちょこちょでくすぐられる役
→くすぐる役
- ・いないいないばあで、顔をかくす役

(4) 協同活動

- 子どもが自分と他者との間で目標を共有し、さらにその共有された目標の達成に向けて、自分の役割と相手の役割を理解し、相手と調整しながら行為する活動**

(4) 協同活動

- 一緒に机を運ぶ
- カギを落とすと拾ってくれる
- 大人が荷物を運ぶ→子どもがドアをあけてくれる
- 日常生活にたくさんある
 - ・一緒に掃除する
 - ・一緒に調理する
 - ・一緒にサッカーをする など

支援のポイント

- 子どもが「受け手」から「行為者」の役割へと交替する活動（例：リングパスゲーム）
- 自分の役割と相手の役割を理解して、相手と調整しながら行為をする意図の共有を目指す活動（例：ブラインドウォーク）
- 自分から他者と注意を共有する活動（例：宝探しゲーム）

リングパスゲーム



□子どもが「受け手」から「行為者」の役割へと交替する活動

準備するものは、色のカード（赤、青、黄色など）とカードの色に対応するボタンリングです。

- ①子どもの立つ位置の前に、机を置きボタンリングを並べます。
- ②少し離れた位置に支援者が立ちます。
- ③色のカードを見せながら、「○色のリングをください。」と声をかけます。
- ④子どもは、支援者から要求のあった色のボタンリングを選び、支援者にパスをします。
- ⑤支援者は、ボタンリングを受け取り、次の色のカードを見せる → を繰り返す。
- ⑥机の前のリングが全部なくなったら、ハイタッチ

ブラインドウォーク



□自分の役割と相手の役割を理解して、
相手と調整しながら行為をする意図の共有を目指す活動

準備するものは、アイマスクと巧技台やフラフープなどの障害物です。

- ①支援者とこどものペアで活動します。
事前にゴールを確認し、ゴールまでに巧技台を乗り越え、フープをくぐることを共有します。
- ②支援者がアイマスクをつけます。
- ③子どもと手をつなぎ誘導するように促します。
- ④子どもは、支援者のペースに合わせて、巧技台の位置やフープをくぐるタイミングを教えながらゴールへ導きます。

宝探しゲーム



□自分から他者と注意を共有する活動

準備する物は、支援者や子どもが好きなぬいぐるみなど宝物となるものです。

- ①支援者は、宝を探す役をするため、アイマスクをします。
- ②支援者がアイマスクをしている間に、子どもは宝物を隠します。
- ③隠し終わったら、支援者は宝物を探し始めます。
- ④隠した子どもは、支援者にアイコンタクトや言葉でヒントを与えながら、宝を見つける手助けをします。
- ⑤支援者が見つめることができれば、ハイタッチで喜びを共有します。

アセスメント

- 初期社会性発達アセスメント(AES)
「自閉症児のための社会性発達支援プログラム」長崎勤他、日本文化科学社、2009
- 観察により発達段階を把握
発達心理学等の文献から現在の発達段階を
照合する

参考文献

- マイケル・トマセロ「心とことばの起源を探る」.
勁草書房、2006
- 「自閉症児のための社会性発達支援プログラム」.
長崎勤他、日本文化科学社、2009
- 「発達支援と教材教具Ⅱ」.
立松英子、ジアース教育新社、2011
- 「発達がわかれば子どもが見える」.
田中真介、ぎょうせい、2009